

大地の芸術祭 第10回展

作品公募 別紙資料

応募用紙の項目【応募部門】にて、提案する部門を明記ください。

記載例：【A：自由提案】、【B-1：アケヤマ ー秋山郷立大赤沢小学校ー】 【B-4：うぶすなの家】

新しく展開するアート作品、
パフォーマンス作品の提案

A：自由提案

大地の芸術祭の趣旨を理解し、地域に
ひらかれた作品をご提案ください。

大地の芸術祭は、異なるジャンルの人々が
協働し、四半世紀続くプロジェクト。

※詳細は『美術は地域をひらくー大地の芸術祭10の思想』（現代企画室）、『越後妻有里山美術紀行 大地の芸術祭を巡るアートの旅』（現代企画室）や、過去の記録集を参照ください。

アーティスト

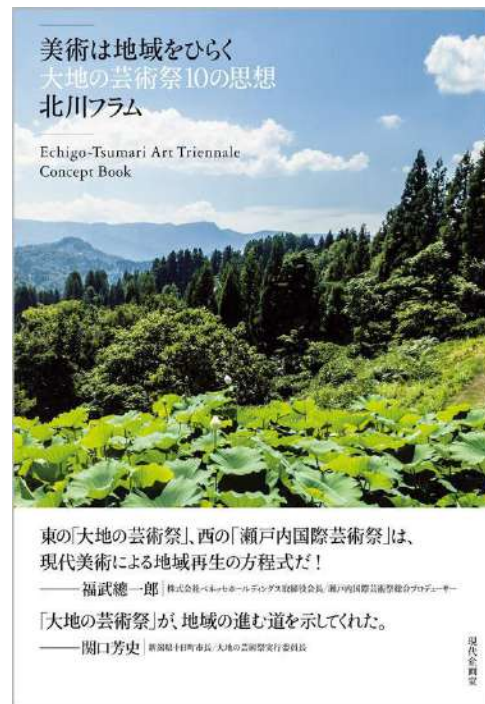
行政

サポーター

地域住民

企業

地元NPO



A：自由提案 過去の作品設置場所・プロジェクト例

▼空き家での展開



▼廃校での展開



▼屋外での展開



▼市街地での展開



▼パフォーマンス作品



▼食体験型作品



B-1：アケヤマー秋山郷立大赤沢小学校ー

アケヤマについて

「アケヤマ-秋山郷立大赤沢小学校-」は大地の芸術祭 越後妻有 アートトリエンナーレ 2024にて北川フラム企画、深澤孝史監修により、廃校となった小学校を改修しオープンした。プロジェクトには、2022年より秋山郷での作品展開を続けていた山本浩二、松尾高弘、会場構成として佐藤研吾が加わった。さらに各作家がテーマに基づいて作品制作を行った井上唯（山の素材の知恵と技術）、内田聖良（信仰・年中行事）、永沢碧衣（狩猟文化）という7名の作家が作品を展開。

※詳細は書籍『アケヤマ-秋山郷立大赤沢小学校-』（現代企画室）を参照ください



B-1：アケヤマー秋山郷立大赤沢小学校ー

募集対象・内容

- ・山の技術・生活・信仰を積極的に学びながら制作したい方
- ・フィールドワークを重視するため、秋山郷での一定の滞在期間を確保できる方

※希望する滞在期間を作品提案書にご記載ください

備考

フィールドワーク後に応募プランに変更があってもかまいません。



B-2：東京電力信濃川発電所関連施設 （連絡水槽もしくは鉄管路）での作品提案

信濃川発電所について

建設当時東洋一の発電出力を保有していた日本有数の水力発電施設。

1本の直径が約3mほどの鉄管が5つ連なる鉄管路は十日町市と津南町の境にある清津大橋から山肌に並ぶ様子を望むことができる。

連絡水槽は飯山市西大滝ダムから取水した水を信濃川発電所へ導水する施設。地下に潜っている水路が一瞬地上に顔を出す場所。また、水路につながる形で、かつてダム建設の途中で中断となった名残のある特徴的な形状の遺構がある。



B-2：東京電力信濃川発電所関連施設 (連絡水槽もしくは鉄管路) での作品提案

募集内容

- ・東京電力リニューアブルパワー(株)信濃川発電所の所有する2つの施設周辺での屋外作品の提案
- ・日本が誇る土木技術による特徴的な空間を活かした作品展開プランの提案

※展示希望場所を指定（連絡水槽もしくは鉄管路を選択）して作品プランをご提出ください

信濃川発電所鉄管路



信濃川発電所連絡水槽



B-3：冬季に展示する雪を使う/雪上の作品・アクティビティ提案

冬プログラムについて

越後妻有では12月下旬から雪が降りだし、1～3月は完全な雪景色となる。

最大3m以上にもなる積雪は、人が暮らすエリアとしては日本のみならず世界でも珍しい降雪量。また、当地域の雪は水分を多く含み重たい湿った雪であり、地域では除雪をはじめ雪国独自の習慣や季節の作業がある。

大地の芸術祭の冬のプログラムでは、そのような圧倒的な雪を体験できる作品・アクティビティを募集。

※実施は2027年1～3月を予定

募集内容

白さ、反射性、可塑性、降り積もる、滑る...などの
【雪の特性】を体験できる作品提案



既存の大地の芸術祭作品を
よりよく見せるプロジェクト提案

B-4・5：願入エリア | 《うぶすなの家》 《胞衣一みしゃぐち》

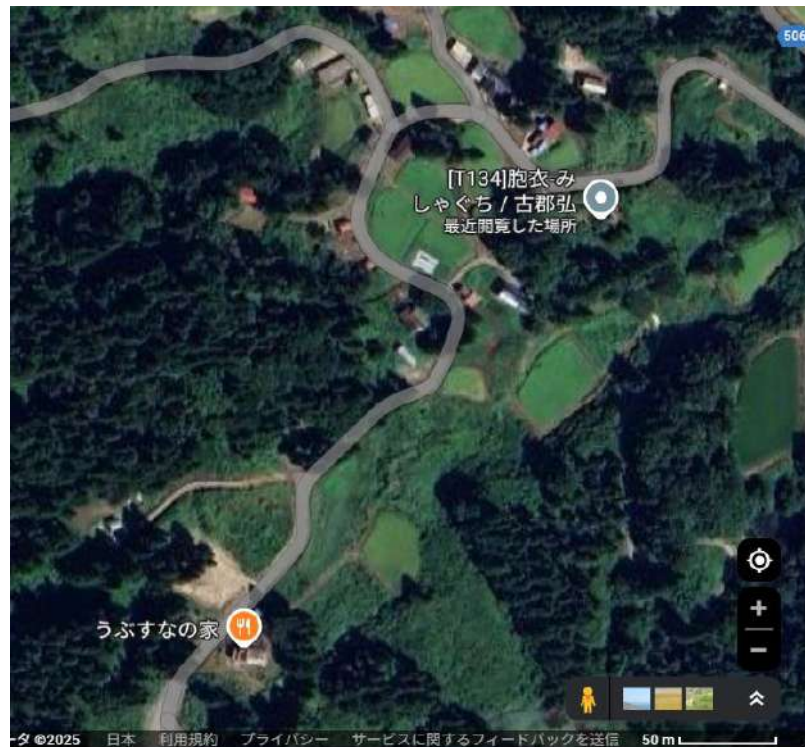
願入エリアについて

「うぶすなの家」と「胞衣-みしゃぐち」は個別の作品ではあるが、どちらも土をテーマとし、同じ集落内の徒歩での散策が可能な範囲に設置されている。

募集内容

《うぶすなの家》《胞衣一みしゃぐち》それぞれに対しての個別の提提案、両方に対する提案、または2つの作品を繋いで集落内を散策できるような提案

位置関係 徒歩6分 450m



B-4：うぶすなの家

うぶすなの家について 改修設計＝安藤邦廣

2004年の中越地震にて半壊した越後中門造りの茅葺き民家（1924年築）を、「やきもの」で再生。2006年公開時、入澤美時をプロデューサーとして作品を展示した。

1階には、日本を代表する陶芸家たちが手掛けたいろり、かまど、洗面台、風呂、そして地元の食材を使った料理を陶芸家の器で提供する作品兼レストラン。2階は3つの茶室から成るやきものの展示空間。温もりのあるやきものと茅葺き民家、集落のお母さんたちのおもてなしが人気の施設。



B-4：うぶすなの家

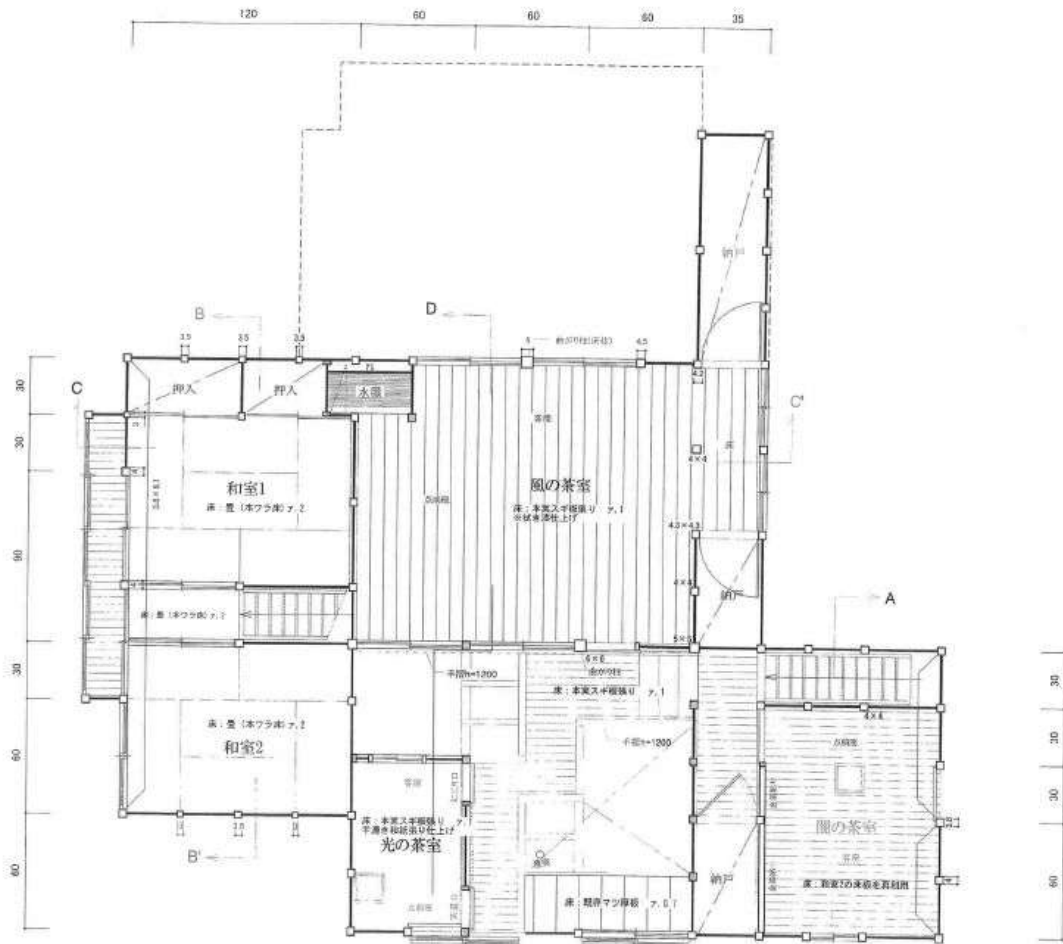
募集内容

「うぶすなの家」の3つの茶室
(2階)を中心に展開する作品提案



過去展開作品《うぶすなの白》

うぶすなの家2階図面



B-5：胞衣ーみしゃぐち

胞衣ーみしゃぐちについて

「胞衣-みしゃぐち」は2006年、古郡弘制作の作品。自然の地形も活用した、土壁の回廊。制作から約20年を経る中、屋根を撤去し、現在では壁面が残っている。

制作当初の様子



募集内容

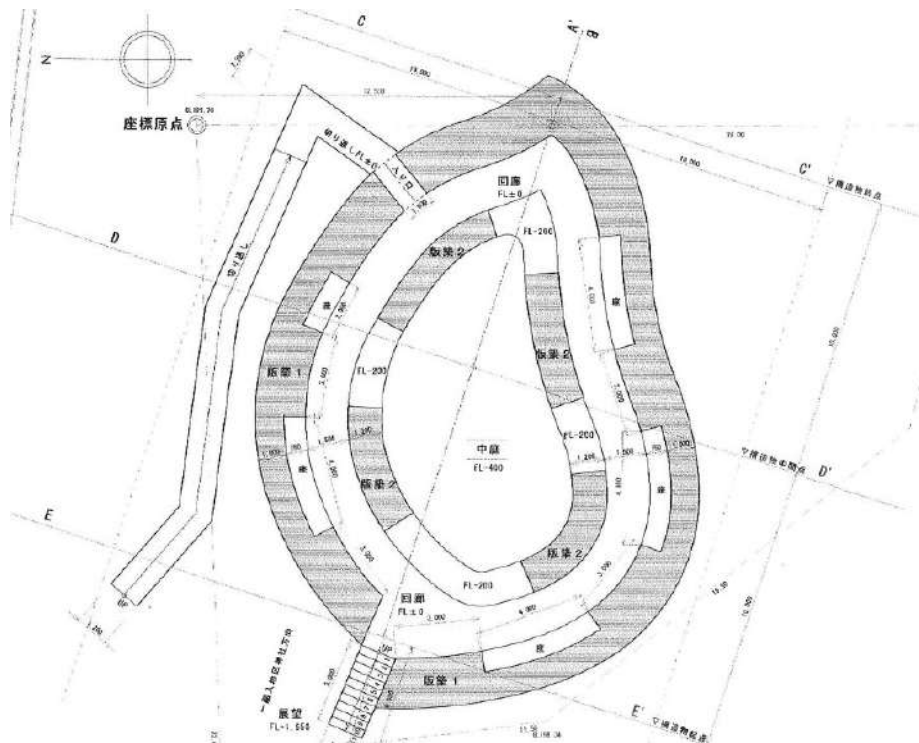
この空間を、新たな作品を追加するなどし、リニューアルする作品提案

現在の様子



B-5：胞衣一みしゃぐち

制作当初の上面図



ディレクターコメント

“儀式の場”とも捉えられるこの空間で、パフォーマンスなどのソフトプログラムのご提案を特に歓迎します。
現在の《胞衣一みしゃぐち》を崩すことはできません。



もともとの
地面があった
ライン